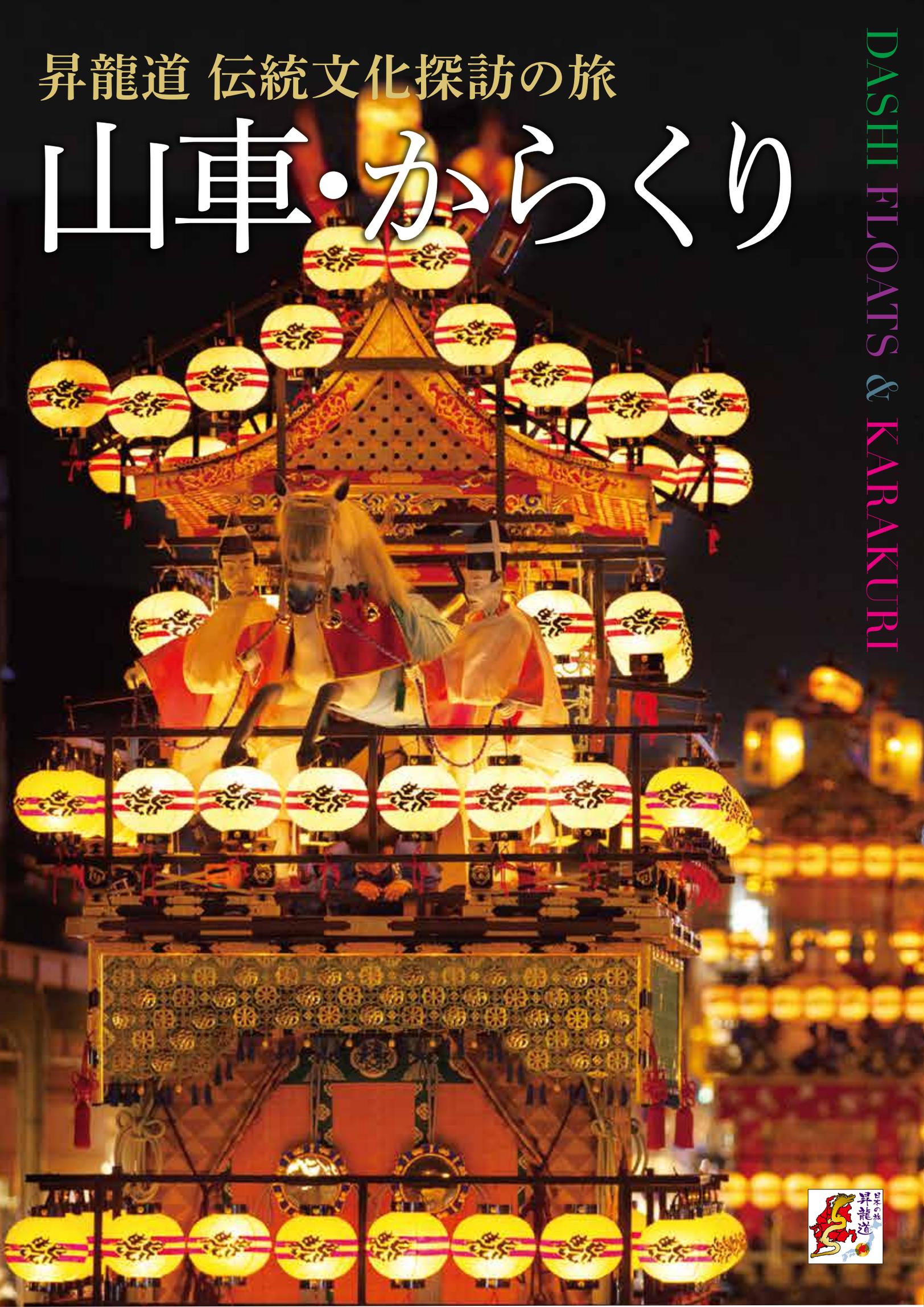


昇龍道 伝統文化探訪の旅

# 山車・からくり

DASHI FLOATS & KARAKURI



# 受け継がれてきた 日本人の心



あさひまつり(福井県越前町)

## DASHI FLOATS & KARAKURI

### 山車・からくりとは

祭に華やかさを添える「山車(だし)」。

山、鉦(ほこ)、屋台、曳山(ひきやま)、だんじりなど、  
地方によってさまざまな名称で呼ばれています。

祭に山車を曳き出す風習はアジア諸国で数多く見られるもので、  
現在、日本全国に分布する山車の数はおよそ5,000といわれます。

町に曳き出された山車に、人々は地域の繁栄、家族の無事を祈ります。

各地の人々の強い絆と誇りによって、山車祭は代々受け継がれてきました。

その山車に「からくり人形」を載せた「からくり山車」。

日本に現存する「からくり山車」は少なくとも300台ほどはあるといわれ、  
そのうちの多くが中部地方に残されています。



# 原点にあるのは、 神の降臨を願う心

## 願

神社で祭礼を行うとき、天から神の降臨を願う「依り代(よりしろ)」が考えられました。神は神聖な山に降臨すると考えられていたため置山が作られ、天高い樹木、美しく飾った柱、花笠、人形などを立てて、神が留まる場所の目標としたのです。やがてこれらに車輪をつけて山車となり、町に曳き出されるようになったのです。これが山車の起源です。山車の原点には、人々の神の降臨を願う心がありました。



古川祭  
(岐阜県飛騨市)



尾張津島天王祭  
(愛知県津島市・愛西市)

## 山車祭りの始まり

都市の祭礼における山車の始まりは、京都の祇園祭の山鉾です。14世紀に現在の山鉾につながる原型が成立したと考えられ、15世紀に61輛の山鉾の記録が残されています。この頃から京都以外でも山車が造られるようになったといわれ、その後、愛知県尾張地域で津島天王祭、熱田大山祭、亀尾天王社(現在の那

古野神社)の天王祭で山車祭りが始められています。

江戸時代になると各地で山車祭が行われるようになり、その動きはまず城下町から起こりました。18世紀になると商業都市や港町へも広がり、知立祭、高山祭、城端曳山祭、上野天神祭などが始まったのも、この時期です。日本で町人文化が発展した文化文政年間(1804~1830年)から明治時代に至る時期に、山車祭は全盛期を迎えます。新たに山車祭を始める地域が小さな町や農村にも広がりました。

## からくり人形の登場

からくり人形を載せた山車は中世末期に見られるようになります。さらに、江戸時代になると、からくり人形の面白さと、山車の妙味を合わせた「からくり山車」は人気となり、各地へと広がっていきました。



高岡御車山祭(富山県高岡市)

からくり人形は古代から存在しましたが、文化として本格的に発展したのは江戸時代。当初は大名、公家、大商人など一部の階層に限られた楽しみだったようです。からくり仕掛けでお茶を運ぶ「茶運び人形」に代表される「座敷からくり」です。

17世紀中頃、大坂で「竹田からくり芝居」が旗揚げされます。「舞台からくり」の始まりです。その公演を通して、からくり人形の面白さ、楽しさが庶民にも浸透し、各地で巡業公演も行われるようになりました。

中部地方では、山車の上山(うわやま)を舞台とし、祭りではからくり芝居を披露する形が採られました。こうして、山車とからくり人形を合わせた「山車からくり祭」が生まれ、発展していきました。

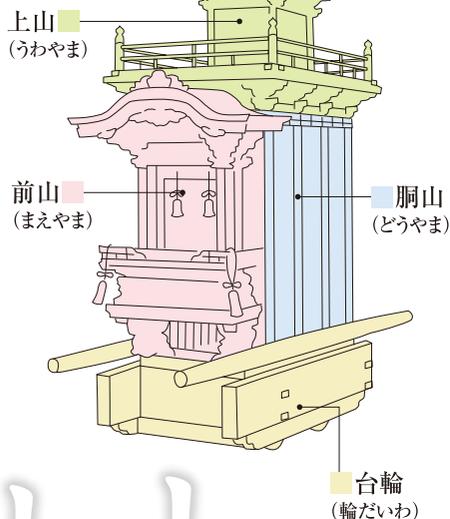


上野天神祭(三重県伊賀市)

高山祭(岐阜県高山市)

# 培われた 技術の集大成

## ◆山車の構造と各部の名称



## 豪華絢爛な 山車の装飾

技術の粋を集めた装飾は、山車の魅力のひとつ。煌びやかであったり、精緻であったり、祭りごとにも個性が見られます。

上山(山車の上部)、前山(山車の前面)などには、彫刻が施されるのが常でした。金・銀や彩色などで仕上げられ、その数は多いもので1車あたり250~300点にも上ります。なかには、獅子、龍、鳳凰等の瑞獣や故事・歴史物語に題材をとったものも見られ、それが立

体感ある絵画のように山車に嵌め込まれています。山車の胴部に張られる2種類の幕も山車の豪華さを引き立てています。胴部の周囲(正面を除く)上部に張る「水引幕」は、祝慶の絵柄を有名画家のデザインで刺繍されたものが多く用いられました。また、囃子方や人形方が乗る胴体内部を覆う「大幕」には、赤青のラシャ地に金、銀系の刺繍や染色など施した意匠が特徴としてよく見られます。

精巧精密であると同時に力強く、流れるような躍動美。その芸術性は山車そのものが動く美術館といえるほどのものです。

## 山車からくり人形

山車祭は日本各地にあります。からくり人形を載せた山車の数は愛知県が最多です。日本にあるからくり人形を載せた山車は約200輛あるといわれていますが、その2/3以上が中部地方にあります。

### 山車からくり人形の演技

からくり人形の演技は、基本的なものからユニークな名称をもつものまで、実に多彩です。これらの芸を重ね持つものが多く、複雑であるほど面白く、観客をハラハラさせ、あっと驚かせます。

- ① 首を上下、左右に動かす
- ② 手足を上下する
- ③ 太鼓を叩く、笛を吹く
- ④ 逆立ち      ⑤ 肩車      ⑥ 面かぶり
- ⑦ 能舞      ⑧ 文字書き
- ⑨ 綾渡り(宙にぶら下がった平行棒を手足をかけて渡る)
- ⑩ 乱杭渡り(高下駄をはいて杭の上を歩く)
- ⑪ 大車輪      ⑫ 誕生      ⑬ 変身
- ⑭ 巫女舞      ⑮ 矢射ち
- ⑯ からくり人形芝居



犬山祭  
(愛知県犬山市)

### からくり人形の操作方法

- ① 人間が直接手に人形を持って操作  
知立まつり 山車文楽の三人遣い 等
- ② 人形の体内にたくさんの糸をしかけ、山車の中に設置した内樋に立てて下から糸を引いて操作  
高山祭 等
- ③ 人形が人間の手を離れて全く一人で動いているように見えるからくり  
久田見まつり 等



大垣祭り  
(岐阜県大垣市)



知立まつり<山車文楽の三人遣い>(愛知県知立市)



城端曳山祭(富山県南砺市)

# 現代に息づく “ものづくり”の風土



亀崎潮干祭  
(愛知県半田市)

1619年、現在の「なごやまつり」となる東照宮祭において、人形を載せた大八車を山車に見たてて巡行、これが「山車からくり祭り」の先駆けとなりました。尾張（愛知県西部）の歴代藩主が財政的な支援を行ったこともあり、18世紀初頭には9輦の山車すべてにからくり人形が搭載され、盛大な祭礼に発展しました。町の賑わいの象徴として、尾張の多くの地で神社の例祭で「山車からくり祭」が行われるようになり、その影響下にあった中部地方各地へと広がりました。そして、現在まで受け継がれ、続けられています。

生きているかのように手足を動かし、見事な芸を披露するからくり人形。その設計・製作にあたっては、科学的な知恵やものづくりの技が欠かせません。山車からくりは、各町の間で人形の精巧さや演技の多彩さが競われ、高い技術進歩を遂げました。現在、中部地方は自動車産業をはじめ、精密機械や工作機械、航空宇宙など、さまざまな産業技術の世界的な集積地として発展しています。

そのルーツには「もっと人々を楽しませたい」という思いを源とする、からくり山車の技術研鑽がありました。

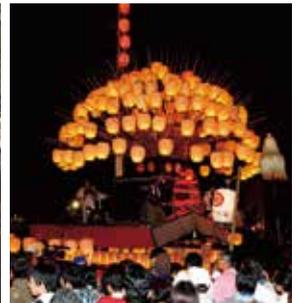
そのルーツには「もっと人々を楽しませたい」という思いを源とする、からくり山車の技術研鑽がありました。



たてもん祭り(富山県魚津市)



石取祭(三重県桑名市)



須成祭(愛知県蟹江町)



長浜曳山祭(滋賀県長浜市)



青柏祭(石川県七尾市)

# 継

鳥出神社の鯨船行事  
(三重県四日市市)



# 中部の山車祭り 中部日本地域

**からくり** からくり人形の奉納または披露がある山車の出る祭です。

**展** 祭、山車等の常設展示がある施設です。  
● 山車祭開催地(2014年3月1日調べ)

**富山県 高岡市** **高岡御車山祭**  
〔高岡御車山祭の御車山行事〕

国指定重要有形民俗文化財  
国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年5月1日(宵祭・ライトアップ 4月30日)  
◆祭礼場所/高岡関野神社、山町一帯(勢揃い式:片原町交差点)  
◆見どころ/4月30日 宵祭 18:00~  
5月1日 奉曳(ぶえい) 11:00~18:00  
5月1日 勢揃い 12:00

**展** 高岡御車山会館

**石川県 七尾市** **青柏祭**  
〔青柏祭の曳山行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年5月3日・4日・5日  
◆祭礼場所/大地主神社、七尾市内中心部  
◆見どころ/5月3~5日 辻廻し  
5月4~5日 三基集合

**岐阜県 飛騨市** **古川祭**  
〔古川祭の起し太鼓・屋台行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年4月19日・20日  
◆祭礼場所/気多若宮神社、気多若宮神社の氏子地域、起し太鼓の里広場(飛騨古川まつり会館前)、古川町市街地  
◆からくり奉納場所/4月19日:各屋台町内  
4月20日午前中:起し太鼓の里広場(雨天は、各町内の屋台蔵)  
4月20日午後:市街地(雨天は、各町内の屋台蔵)  
◆見どころ/4月19日 20:00~00:00すぎ起し太鼓  
4月20日 屋台の曳き揃え

**展** 飛騨古川まつり会館

**富山県 南砺市** **城端曳山祭**  
〔城端神明宮祭の曳山行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年5月4日(宵祭)・5日(本祭)  
◆祭礼場所/城端神明宮  
◆見どころ/毎年5月5日  
9:30 城端別院前に庵屋・曳山が一室に  
17:00 出丸坂で曳山を180度回転  
19:00 曳山・庵屋台に提灯をつけて街を練り歩く

**展** 城端曳山会館

**富山県 魚津市** **たてもん祭り**  
〔魚津のタテモン行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年8月第1金曜・土曜の夜  
◆祭礼場所/諏訪神社  
◆見どころ/20:30~23:00 たてもんの曳き回し

**岐阜県 高山市** **高山祭**  
〔高山祭の屋台行事〕

国指定重要有形民俗文化財  
国指定重要無形民俗文化財

◆日程/春の高山祭:毎年4月14日・15日  
秋の高山祭:毎年10月9日・10日  
◆祭礼場所/春の高山祭:日枝神社  
秋の高山祭:桜山八幡宮  
◆からくり奉納場所/春の高山祭:日枝神社御旅所前  
秋の高山祭:桜山八幡宮境内

**展** 高山祭屋台会館

**滋賀県 長浜市** **長浜曳山祭**  
〔長浜曳山祭の曳山行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年4月13日~16日  
◆祭礼場所/長浜八幡宮、長浜市街地一帯  
◆見どころ/4月15日 9:45~10:00  
一番山の子供狂言

**展** 長浜市曳山博物館

**岐阜県 大垣市** **大垣まつり**  
〔大垣祭の軸行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年5月15日直前の土曜(試楽)・日曜(本楽)  
◆祭礼場所/大垣八幡神社周辺  
◆見どころ/試楽/8:45~11:00 奉芸  
12:00~18:00 自由巡行  
19:00~21:00 夜宮  
本楽/8:45~10:00 奉芸  
10:00~17:15 出軸巡行  
19:00~21:10 夜宮

**愛知県 津島市・愛西市** **尾張津島天王祭**  
〔尾張津島天王祭の車楽舟行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年7月第4土曜(宵祭)と翌日の日曜(朝祭)  
◆祭礼場所/津島神社、天王川公園  
◆見どころ/毎年7月第4土曜 20:45頃~宵祭(まきわら船出船)  
毎年7月第4日曜 9:00頃~朝祭(車楽舟出船)

**三重県 伊賀市** **上野天神祭**  
〔上野天神祭のダンジリ行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/10月25日までの直近の金・土・日曜日  
◆祭礼場所/上野天神宮(菅原神社)、伊賀市市街地の三筋町  
◆見どころ/日曜日のだんじりの巡行

**展** だんじり会館

**三重県 四日市市** **鳥出神社の鯨船行事**  
〔鳥出神社の鯨船行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年8月14日(町練り)・15日(本練り)  
◆祭礼場所/鳥出神社、各町内  
◆見どころ/8月15日 10:00~昼過ぎ  
各組が順番に鳥出神社に本練り(鯨突き)を奉納

**三重県 桑名市** **石取祭**  
〔桑名石取祭の祭車行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年8月第1日曜とその前日の土曜  
◆祭礼場所/春日神社及び春日神社周辺、各氏子町内  
◆見どころ/日曜 13:00~ 整列、18:30~ 花車渡祭、21:00~ 町田交差点曳き別れ

**展** 石取会館

**愛知県 半田市** **亀崎潮干祭**  
〔亀崎潮干祭の山車行事〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年5月3日・4日  
◆祭礼場所/神前神社、亀崎地区(尾張三社、秋葉社など)  
◆からくり奉納場所/神前神社、尾張三社、秋葉社、亀崎海浜緑地  
◆見どころ/5月3日 10:30~ 海浜曳き下ろし  
5月4日 14:30~ 海浜曳き下ろし

**愛知県 蟹江町** **須成祭**  
〔須成祭の車楽船行事と神渡流し〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年8月第1土曜・日曜  
◆祭礼場所/富吉建速神社、八剣社、蟹江川  
◆見どころ/20:00~21:30  
祭船飾橋出発~天王橋到着

**愛知県 犬山市** **犬山祭**  
〔犬山祭の車山行事〕

国指定重要無形民俗文化財

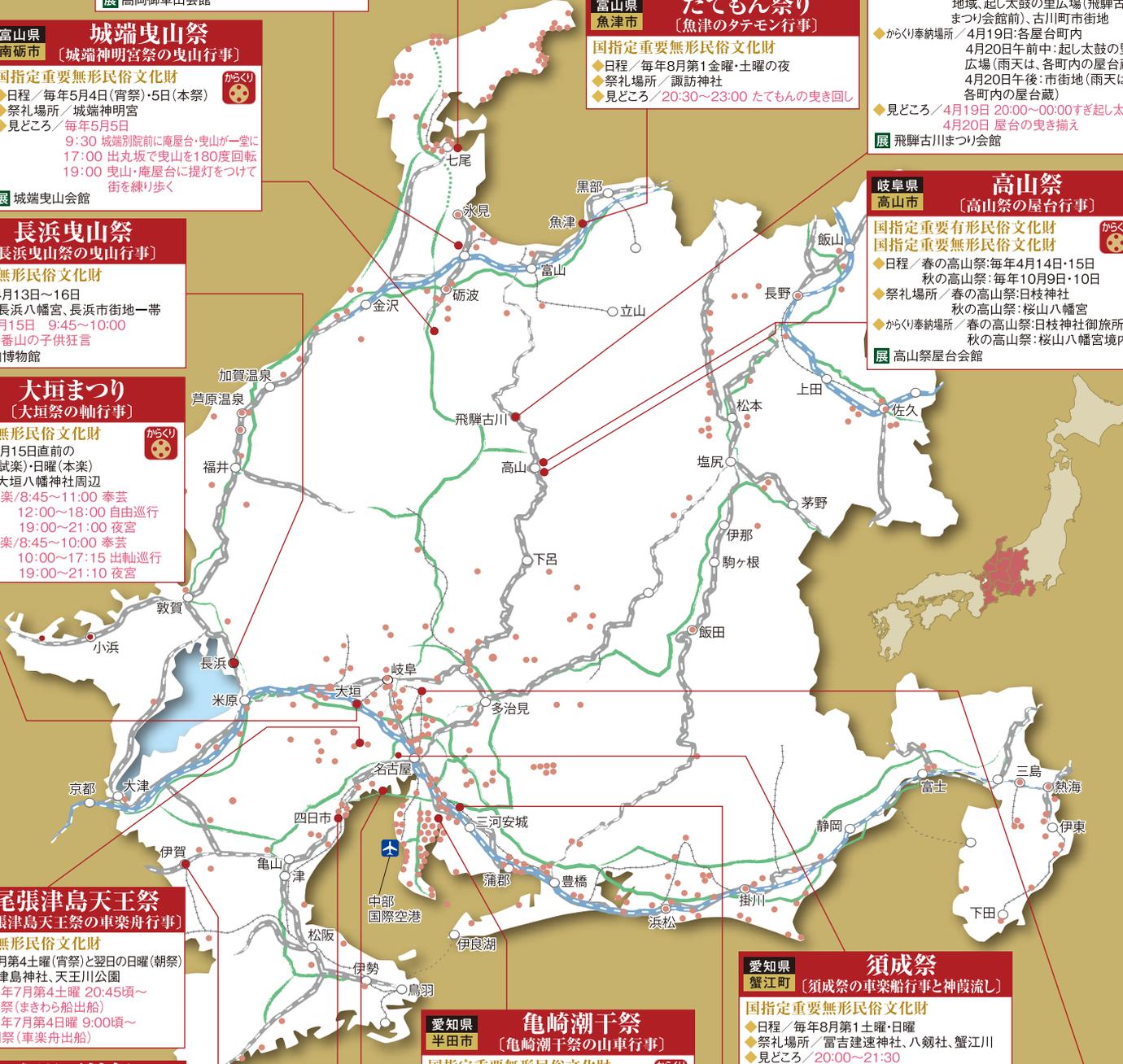
◆日程/毎年4月第1土曜(試楽祭)・日曜(本楽祭)  
◆祭礼場所/針綱神社  
◆からくり奉納場所/針綱神社前  
◆見どころ/日曜午前中より 本楽祭、からくり奉納

**展** どんでん館

**愛知県 知立市** **知立まつり**  
〔知立の山車文楽とからくり〕

国指定重要無形民俗文化財

◆日程/毎年5月2日・3日  
◆祭礼場所/知立神社  
◆文楽・からくり奉納場所/知立神社境内  
◆見どころ/12:30 山車の到着  
隔年5月3日 14:00 山車文楽とからくりの上演(本まつりのみ)



## 広域観光周遊ルート形成促進事業「昇龍道 山車・からくり街道」

国土交通省 中部運輸局・北陸信越運輸局/(公社)日本観光振興協会中部支部/中部広域観光推進協議会/中部国際空港利用促進協議会